

(11) /
Vol. I, No 3
1951年3月
食穀昆虫同好会

螟虫のキンタマ

深谷昌次

私はこの頃毎日螟虫のキンタマを研究している。この騒々しい世の中でこれはまたひとくち奇気な話だと笑われるかも知れないが、笑うのは一寸待って貰い度い。そもそも螟虫が年々何百万石の被害を稲作に与えている原因は色々あるが、要するに之が原因はいくつかを挙げておいてからに他ならない。古来この虫を撲滅するために學者達はあの手この手を用いて見たが一方向の手がつかない。そこで私は異端一徹の手段で稲穀巨だと見て、その手を変えてみる方法はないものかと長年案じ上げて来、かくはキンタマの研究に着手したのである。若し螟虫のキンタマを主として養育不良にすることが出来たら——そんな事が遂に見られたらとめたいものである。吾輩と云はなり、世間の議論はどうやら近く私の掌中に落ちそうである。

要するに稲穀巨と、腹が膨らんで小生の研究室に来たまえ。あの美麗な蚕豆型をしたキンタマを私に見せろ。全日モリ君、A君が尋ねて来たら早速お見せしたのだ。兩名とも口を附けたまえ、稲穀巨の位は食わずけになって節こうともはしなかった。正確なキンタマは蚕豆型で越冬幼虫では長さ1.30mm 幅0.52mm位にある。中には丸いもの、びょうと人型のもの等幾々ある。

私はこのキンタマを養い且つまたひとくち増やすつもりのある日々を送っている。

ギフチョウとうすばさいしん

古屋野寛

元来ギフチョウの食草として「うすばさいしん」が知られていて私は私に先年うすばさいしんを同科のみやこあひを採集した際同行の某君が葉の裏に気付く自宅の森の中にその中の観察を促されたが黒い幼虫になったまゝでは良かったが終に見失ってしまった事がある。某君は稲穀巨やフナヨウの幼虫だと言う。私は昆虫についてはあまりにも知識がないので別段深くも注意しなかったが翌年小使と共に神奈川の森に採集に行くと稲穀巨やフナヨウを採集した場所の一角を散策して見つけた。それが何と前年私がみやこあひを採集した場所と同一地帯なのだ。某君には曾に多くのみやこあひがとらえていてその大部分の葉は食害を受けていた。うすばさいしんはヒメアザミを食すたが

送に見当らなかつた。

その後、湯原でもギフチョウの居た場所に来てみやこあふひを産見することが出来た。も早々岡山県のギフチョウはみやこあふひを食う事は恐かすことの出来ずいふ事だ。そしてかんじんのうすばざいしんはしきうと私の知っている産地は随一つで神庭の近隣の山中で道に迷った間隙にこそその幼虫と産見する事が出来た位で非常に産地は少く記録によれば実作の一畑桑に有る事が有り産物出産地に出ていた位で他には産する事を知るない。幸山附近と言う事は想像出来るが産地として挙げられた地名に調査したに不明だった。幸山の片山氏に会ってギフチョウの産地について何ったけれど、新しい産地として私の採集した所及び記録についてのおと、畑中阿古、高梁の北東に奥谷、成羽川のほとり黒島、実作では神庭の近、湯原等では湯原では湯原社をそれら少数の生首してゐる。一番多いのはやはり湯原附近一帯であろう。奥谷で昨年はまんきかんあふひと云う珍産を採集したにそれは日本で最西端だろう。其他同科にはみやこあふひと云う石物はあるがそれは奥北寄一帯に在る所に生産しているがその産物はギフチョウには関係はない様だ。有るとすれば山形県が以前居られた上市町等には相当な量を産している故を二でギフチョウを採集した事だろう。ギフチョウを採集した方ばかり以上挙げた産地に行けば是非その附近にかんあふひ類がに育することだろうから見逃さず採集された。若しみやこあふひ、うすばざいしん等の産物の知りたければお出下さ。いつまでもお見せ致しましょう。又先年産肝へも標本を送りて下さるので深谷先生にお尋ね下さい。

うすばざいしんの生育していた場所へ私は一同行って見たらと思つていますが、希望の方はいつでもお知らせ下さい。ではギフチョウ及びうすばざいしん、みやこあふひの新産地を御覧見されます様お祈りして私の拙文を終ります。(1951年5月11日)

岡山県産やぶまを属について

古 屋 野 寛

今年山川東平氏がラミーカミヤリをねらつて居られるのでお力の助産になりはしないかというラミーのグループ、やぶまを産植物について少々ばかり調べて見た。

岡山県の Flora に現れたやぶまを属 (*Beechmeria*) は、

- | | | |
|-----------------------|------------|-----------------------------------|
| <i>B. frutescens</i> | カラムシ | 県下一円。 |
| var. <i>concolor</i> | ワサマヲアヲカラムシ | 備前、岡山、奥谷、美田、高田、川上、上野、茂口、吉備、待月。 |
| <i>B. japonica</i> | ヤブマヲ | 県下一円。 |
| <i>B. platyfolia</i> | メヒヤアマヲ | 上野、奥谷、美田、川上、高田、阿古。 |
| <i>B. Sieboldiana</i> | ナギバヤアマヲ | 同前。 |
| <i>B. truncispis</i> | アカソ | 上野、高田、黒島、小田、徳島、阿古、美田。 |
| <i>B. spicata</i> | コアカソ | 高田、上野、赤坂、邑々、待月、小田、高田、川上、上野、阿古、美田。 |

以上の7種は、今迄には、*B. frutescens*, *B. japonica* の二種しかない事になり、他は広く県下に分布しているが残念な事に未だ倉敷附近よりは報告されていない。私が現在手には調査したところでもやはり同じ様な事を云える以上7種以外、*B. holosericea* やアヤマヲらしい植物を採集している。専門家に相談されたものでないので未だ疑問としていたが、倉敷附近に分布している。ラミーカミキリの食性を私はよく知らないが、ラミーカミキリと云うからにはラミー(*B. utilis*)を主に食草とする事と思うが、*B. utilis* は自生品でなくて栽培品なので以上のFloraには記載されていないが何処かの園圃に必ず栽培されて居るだろう。不幸にも私は未だ現場に行き当たらないため実物を見た事はない。

牧野博士の説によれば、*B. utilis* = *B. nivea* var. *candicans* とせられ *B. frutescens* = *B. nivea* となり、結局ラミはカラムシの一変種となる。専門上のむづかしい理論はさて置きラミーカミキリ君の食性は如何だろうか、多分カラムシモクサマヲも食う事と思われ、或はアヤマヲモアカリモ更にやぶまを属以外の同科全植物に及ぶかも知れないが、ここではラミーに一番近いやぶまを属についてKeyを記して野考での参考になれば幸いと思う。

やぶまを属

I. からむし亜属 葉は互生

II. 真正やぶまを亜属 葉は対生

I. からむし亜属

(茎、葉柄に灰白色の剛毛密生す——ラミー
茎、葉柄に短毛あり剛毛密生せず——からむし)

1. ラミー 台湾に野生するが各地に栽培す

2. からむし 本州、四国、九州に広く分布するが栽培している所もある

あなからむし(くさまき) 本州、四国、九州

からむしは葉の下面白綿を密生するがあなからむしは僅か白綿毛あるが後無毛となる。

II. 真正やぶまを亜属

そくまを節

二あかそ節——あかそ、二あかそ

なばばひめまを節

なばばやぶまを節——なばばやぶまを

らせいたさう節

さしかいやぶまを節

やぶまを節——やぶまを、めやぶまを、あなやぶまを



非常に簡単に真正やぶまを亜属は素人の我にはKeyだけでは区別が困難なので勘察一だと思ひ野外で実際に着する機会まで待つ事とした。上記のからむしの項に栽培している所もあるとしたのは花井吉備郎、柳屋郎下でからむしを栽培していたらしい場所を見たからで、県下各地でも現在は栽培していないが以前栽培していたらしい場所を断片見か

ラミーカミヤリを採集せられたら食草もぜひ採集せられたら希望してこの項を終ります。
(1951年3月10日)

ゴミムシ



ボシヒラタオオミムシは
あまり珍種ではないけ

れども、あまり普通と云う程
でもない様である。私も、こ

いつの標本は一つしかなく、ラベルを見
ると1948年6月23日墨田で採ったことにな
っている。これより二年前、青野氏
が羽島山で1個体を採ったことがある。

墨田は河野でも皆んな云う様に昆虫の
植栽数と個体数も食草附近では最も多い
場所の様である。やゝ奥まったところで
よく採るといろいろ珍らしいやつを見
ることが出来る。私は最初オオオミムシ
なんか、このあたりには居ないのだろうと
思っていたが1948年11月4日足元を歩行
して来た本種を採ったことがある。この
附近のゴミムシではオオギヤリゴミムシ
やオオゴモクと並んで大型種の中に入る
ギヤリマルクビゴミ、これも少ないか
と思っていた頃刻に居るようである。

1948年10月10日私の家のタタミの上にお
りありおいてゐる本種を発見して採った。
又青野氏も1個体とられている様である。

倉敷地方のゴミムシもなかなか面白い
種で珍種も時々いるし、皆んなで協力し
て目録を作った方がいいと思つてゐる。

(小野 洋)

シラホシカメムシ

の寄生虫

1951年、こゝ、羽島山でシラホシ
カメムシを採集した。彼等虫に入
て数日後、その小血板の上に二個の卵を



の附着してゐるのを発見した。
尚、ふりこ、てふいど産
虫管から成りしこおいたが翌
日にはもう死んでいたのでそ
の寄生虫は何であるかわから
ない。(背中を押された所着して

いたのみる寄生虫かどうかわからな
い(知れぬが)カメムシの寄生虫はあま
知られてゐない(虫・自然17号、昆虫の部
part1)。

カメムシの寄生虫に続いて御存知の姿を
お教え下さい。尚標本は軍倉が保存して
る。(白神 昭)

ウラジロミドリシジミ？ 倉敷に産す



倉は昨年6月15日？倉敷附近墨田に
於いて本種？子を採集した。その後
西成の山川先生により同所に於いて1子を
採集された。しかし山川先生によればこれ
は本種ではなくミドリシジミらしいといわ
れる。まに小野さんは四條に居るし倉敷
まで来て本種ではないかとのことであつた。
しかし山川先生は筆者の標本をまだみて居
られなりのでどちらで居るかはっきりした
ことはわからない。もし本種とすれば小近
先生の岡山県蝶類図録によれば中部以北
産とある。また全図節にみても稀なる種で
ある。南部である倉敷に産するのほけしを
かしいがこのようなことは無いこともない
といふやう。ミドリシジミとすれば岡山、
北部には少ないのでこれに産するとは
いえな。しかし墨田は使未ゼフィルス
説の聖産する所なのでそこをどうかが

ら此方としても別に不都合はない。

本報が古くは今條に記す時とちたし
ても倉敷には未記録であると想う。なお
残念なことに本報が古くは記す物に小
川二河川で前記片一方の羽とれなくな
つた。標本は小野さん所蔵(1951.3.11記)

(広瀬義躬)

天牛の天敵三題

1. VI-11, 1950. オオイシアブがアト
シロサビカミヤリを捕えていたのを発見
した。

2. VII-18, 1950 シオヤアブがアトシ
ロサビカミヤリを捕えていた。

3. VII-18, 1948 ナカシロサビカミヤ
リ? がシオヤアブに捕えられていた。

以上三題での観察。

4. Ⅷ-25, 1948 トノサマガエルの腹
中よりミドリカミヤリの翅類、腹等を見
出した。

(白神昭)

モンシロチョウの初産日

年に入ってからずっと寒い日が続きま
したが、2月下旬になって一時大へん
暖くなり23日にはモンシロチョウがひら
ひら飛ぶのを5、6匹見かけることが出来
た。その後又寒さばっかりして蝶の飛ぶの
が見られなくなったが再び気温がやわら
げばモンシロチョウも多数発生するであらう
筆者は数年来とにかくモンシロチョウが飛
ぶのを初めて見た日を記録して来たりでこ
ゝに参考までに記しておきます。

1947年 3月3日 北条町にて

1948年 2月29日 北条町にて

1949年 2月15日 倉敷町にて

1950年 3月5日 北条町にて

1951年 2月23日 未にて

(音野孝昭)



岡山県産蟻類目録

古屋野寛

ハリアリ亜科

オオハリアリ

倉敷市

フタフシアリ亜科

アシナガアリ

津山市、英田郡後山

オホズアカアリ

浅口市大島町

アリマコズアカアリ

英田郡後山、津山市

トビイロシリヤアリ

浅口市高島町、倉敷市

キイロシリヤアリ

倉敷市、上房郡上水田村

ハリマトム木木アリ

浅口市大島町

クロヒメアリ

浅口市大島町



アミメアリ
トビイロシロアリ

倉敷市、都窪郡蒼生村、上房郡上水田村
浅口郡寄南町、倉敷市、浅口郡大島村

ルリアリ亜科

アメイロアリ
サクラアリ

倉敷市、都窪郡泉山、津山市、皆田郡大原町
上房郡上水田村

クマアリ亜科

クロクサアリ
クサアリモドキ
ミヤマトビイロケアリ
クロヤマアリ
クロオオアリ
ムネアカオオアリ

皆田郡泉山
皆田郡大原町、津山市、倉敷市
皆田郡泉山、阿哲郡野馳村
浅口郡大島村、皆田郡泉山
倉敷市、皆田郡奥津町
津山市

4亜科

12属

19種 (亜種、変種を含む)

私は昭和50年植物採集に各地を廻りましてその際採集しまして県内産の蟻類を整理して見ました。標本の同定は全部東正雄氏にお願ひ致しました。2,3疑問の種が有りまして但し回答が参りませんので記載を控えました。



無題

古野野寛

私は幼い時から動植物が非常に好きでよく山野を駆け廻ったものです。好きで始めた採集なので今までに何度も大きな障害がありましたがいやほり続けています。植物学の牧野富太郎博士が私の恋人は植物であると云って居られましたが本当にそうです。山中奥深く分け入って珍らしい物を手に入れた時の嬉しさは、この道の人でなくては到底想像がつかない事だろうと思います。

さて私の本職は植物の才で昆虫は全然の素人で昆虫採集をやったのは植物を始める以前一年ばかりで今から十数年も前の事になります。その頃山川氏や小坂氏を知って居れば続けてやった事だと思ひます。その頃遠く通って肥後県へ落ちたからでも有りませんが何の調子か植物に変更してしまいました。倉敷昆虫会各会が絶足することを聞き及ぶも苦けて退意を致しましたところ山川氏から君はアリをやって居るから是非仲間になれと云われ植物採集の余暇にやって居るアリを以て皆さんの仲間に入る事に成りました。この会の皆さんは非常に熱心な人等になつて居るので恐らく私が一番不熱心な会員だ

ろうと思います。皆さんの仲間になって私も昆虫をやりたい。反対に植物のオオ引張のりも使えませんから警戒して下さい。

平山の片山氏も昆虫で文化賞を受けられましたが、その時私が行って植物をやるときに知るところ置きましたから平山からギット植物を採集なさることと信じます。植物と昆虫は非常に密接な関係があることは皆さんはよく御存じだと思います。今まで私が植物採集して面白い所だと思った所さはず誰かが珍らしい昆虫を見つけています。又反対に珍らしい昆虫が居る所はギット面白い植物が分布しています。皆さんも昆虫をやりたいから植物の名前を知る事は重要なことだろうと思います。皆さんも大いに頑張ってください。私も昆虫のことは駄目ですが、植物のことは十数年の知識がありますから大いに御援助させて頂きます。早速植物の誘惑することになりました。御安心、御安心、

「失敗談」



青野孝昭

私が老松高校へ行っていた頃のこと。まだ世の中はぼんやりな中で学校の備品がよくおさまらぬので生徒の間で自発的に夜警をすることが決まられ私も小野君等と共に6月27日の夜学校に泊ったことがある。虫狂の私達がこの好機をのがすことはない。宿直室は二階になっていたのでも更に都合が良かった。その上天気は雨よりのどんよりした曇りで無風と好条件揃い。老松高校は御存じの如く田園の奥中にあるので煙火に危んで来るものは水棲昆虫、ゴキムシ、

ソウカメイガの類が多かったがとにかく多数の昆虫が籠んで来た。大きなものではゲンヤンマ、タガメのようなものからウンカの如く小さいものまで様々である。私等二人は明けは至した夜窓から籠り込んで来る虫の鳴き声を聞きながら何の敵友が一息入れているのを承知して昆虫を取り続けた。その晩そこでオオキベリアオオゴキムシを拾いとしてゴキムシの類を相対取ることが出来た。翌日の朝陽を浴びて次山の夕獲した昆虫を整理し、つくづく眺めししばらく楽しんで後戸棚へ入れて置いた。

この一す拵が前に来るけれども、この日より一週間程前、6月23日に小野君と神庭の君へ採集を託す獲物は少なかったが、それでもハチによく似たトラフカミキリ等、かなり取って来ていた。それで夜警の日に来たものとで原稿板には昆虫が数多く並んでいた。

まあその晩のことである。前日の夜警で体もかなり疲れていたのを早く床に着いて寝ようと思っていれば煙火に二、三昆虫が籠り込んで来たので整理するため原稿板類を全部どろり戸棚から出した。出して見ると何所ものくせで甲虫共の脇刻埃に見とれ始め腰に置き斜めにしたり、腰に向ひたりそれは長いこと眺めあぐさを知りて床へ入ってからも手がはなされず、前日の晩までとうとう戸棚へおしまわずに落ちてしまつた。

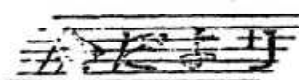
ところが翌朝起きて見ると大炎が燃えているのである。あれ程熱心に整理して宝庫のように大切にしていた虫共が非常なる災難に合つてゐる。蝶、蛾の類は大したことはなかったけれどもオオキベリアオオゴキムシの姿は全くなく、トラフカミキリは川下かに

右除股一本あるのみ。他の甲虫も無残にこぼれ落ちた。股のちぎれたもの。羽ははみ出たもの。とにかくまともなものは一匹もない。明らかにキムウ公の仕わざだった。ヤッニさんはその晩大変な御馳走に大層がだったことだろう。

それは万さの切れぬ程くやしいことだったが幾ら他園踏んで見てもさうな後がまわり、自分に手落ちがあったので誰にもうたえることも出来なかった。でも本前校はそれら共々楽しく肝を通したのだし、又河豚かは採れるだろうと変に暗りを雨にたこうなつて暮らして、それから気も分けていゝるのでこの様なことは二度と逢ふことはないつもりです。

會員名簿 (Ⅲ)

- | | | | |
|-----|--------------------|-----------|---------|
| 33. | 広瀬 正明 | 倉敷市田ノ上 | 大南小学校6年 |
| 34. | 古 ^屋 野 隆 | 倉敷市赤田町 | |
| 35. | 中 塚 寛次 | 倉敷市住吉町農研所 | 研究員 |



今までは原稿の提出日については別に決めていませんでしたので「すずむし」の発行が遅れがちになりましたが四月からもっと早く発行するため毎月第一土曜日を一定原稿提出締切日とし、その日の午後全員が原稿持参の上倉敷西小学校運動場に集合することになりました。その席上毎月の金の計算や知識の交換等談話会を開きたいと思ひます。持参の原稿でその日に差支えのある方は何か適当な方法で毎月第一土曜日に倉敷西小学校の山川先生のとこへ提出して頂いて下さい。それから原稿は必ずとどけたいと思ひますから出来るだけ毎週一人一編以上書いて下さい。(編集部)



編集後記

★ 本号には御多忙中の藤村先生に御無理を云って貴事原稿を戴きました。最近の先生の御研究が窺われます★古田野兄は深山の原稿を寄せて下さり、岡山県産地産物製品目録は学術的のもっと立派なものを授けて下さいました。紙面の都合上本号では載せることが出来ませんでした。次の機会に印ずらせて頂きます。★希望に添うた著者様にやって頂きました。皆さん思い切りネットを張るのを祈ります。(A生)

すずむし (第1巻第3号)

昭和26年3月22日 印刷

昭和26年3月23日 発行

編集者 小野 洋、青野 孝昭

印刷 青野 孝昭

発行所 新川町倉敷西小学校理科教室

非売品 室内 倉敷昆虫同好会